

る。

一方後者は、フリーアクセスの国民皆保険制度に宿命的に内在する「モラルハザード：予防医療の軽視」および「共有地の悲劇：過剰医療の要求と提供」のメカニズムによるものである。「モラルハザード」を防ぐ方法として、「定率自己負担」および「定額自己負担」があるが、現在の日本の医療保険制度は既に3割の定率自己負担と高額療養費制度による定額自己負担がいずれも導入されており、それでも「モラルハザード：予防医療の軽視」が生じていることに留意する必要がある。「モラルハザード」を防ぐもう一つの方法として「自己申告」があり、その変形として「タバコ税の増税と目的税化」が有効である。

国民皆保険へのフリーアクセスを守りながら「共有地の悲劇」を防ぐ方法としては、「段階的アクセス」化、すなわち「かかりつけ医」の制度化が考えられる。ここで、「かかりつけ医」が共有地を食い潰す牧者となってしまう現象を避けるためには、現在米国で試みられつつある「Pay for Performance 支払い制」の導入が有効である可能性がある。

D. 考察

「第三者評価」および「Pay for Performance 支払い制」の中では、ある疾患に対して適切な割合の患者の診療に、「医療の質」の向上を目的に策定された「根拠に基づく診療ガイドライン」を適用していることによる評価が重要かつ有効と考えられる。従来の診療ガイドラインは、医療提供者の評価に用いることは前提としていなかったが、今後は「医療

の質」の評価もその策定の目的となることを前提とする必要があるものと考えられる。

E. 結論

「根拠に基づく診療ガイドライン」は、医療制度の問題を作り出している「レモン市場化」および「共有地の悲劇」のメカニズムへの対処法として利用可能性があり、診療ガイドラインの策定にあたっては、「医療の質」評価の規準として用いられる可能性を前提とする必要がある。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

- Nomura H, Nakayama T. Japanese healthcare system. The issue is to solve the “tragedy of the commons” without making another. *BMJ* 2005; 331:648-9.
- 野村英樹. SFDC「プロフェッショナルリズム」コースに参加して. *週刊医学界新聞* 2005; 2658号.
- 野村英樹, 中山健夫. 「医療制度改革大綱」を読む. *週刊医学界新聞* 2006; 2670号.

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
 2. 実用新案登録
 3. その他
- なし
なし
なし

平成17年度厚生労働科学研究費補助金（医療技術総合研究事業）
「根拠に基づく診療ガイドラインの適切な作成・利用・普及に向けた基盤整備に関する研究」
分担研究報告書

診療ガイドライン作成・利用・普及の社会的側面に関する研究

分担研究者 今中 雄一 京都大学大学院医学研究科医療経済学分野

研究要旨

診療に関するガイドラインに対する社会ニーズは、医療者向け、一般向けを問わず、大きいものがある。エビデンスに基づく、社会的にも医療内容上も信頼度の高いガイドラインの情報発信基盤が必要とされている。診療ガイドラインの作成や利用・普及を推進するプロセスは、専門職内に閉じたものではなく、社会的なプロセスである。その際、我が国の医療・社会環境を鑑みて、以下のような点が重要ではないか。

1. 診療ガイドラインのスコープには、患者や医師、医療職を始め医療における様々な役割を担う者の役割の範疇がありうる。一つの疾患などのテーマを扱う際にも、医療の提供者、受療者を少なくとも含んだ包括的なスコープをもつガイドラインが重要であり、その作成の過程には、医療の提供者、受療者、様々な重要関係者が係わることが望まれる。

2. H16年度に報告した如く、よりよい医療を協働して作り上げていくためにも、「患者向けガイドライン」ポータルサイトの構築は、便益性のみならず、実行可能性の極めて高いものであり、国民のために予算化してする社会的重要性は高いと考えられる。

3. ガイドラインの内容の全てが、根拠の強い内容になることはなく、また、強いエビデンスの生成には大きなコストがかかることを認識しなければならない。我が国や医療現場の固有の状況を考慮する必要がある。

4. 紛争の解決などにおいての偏った利用のされ方などは、医療を萎縮させ患者への不利益につながっていくので、避けられなければならない。

5. 上記を含め、診療ガイドラインの社会的側面とその価値の大きさを鑑みるにあたり、診療ガイドラインの生成、活用、普及については、短期的でトライアル的な活動の推進のみならず、国レベルでの社会的な設計と投資が必要である。

- A. 研究目的
診療に関するガイドラインに対する 社会ニーズは、医療者向け、一般向けを問わず、大きいものがある。エビデンス

に基づく、社会的にも医療内容上も信頼度の高いガイドラインの情報発信基盤が必要とされている。

診療に関する患者向けのガイドラインに対するニーズは大変大きいとみなされ、実際に医療の内容の質向上や医療への適切なアクセス向上への貢献は大きいものが有るであろう。

平成16年度には、エビデンスに基づく、社会的にも医療内容上も信頼度の高い、患者向けガイドラインのインターネットを通じた情報発信基盤としてのポータルサイトの設計試案を構築したが、ガイドラインの作成や利用・普及を推進するプロセスは、医療専門職にとどまらない、社会的なプロセスである。

当研究では、我が国の医療・社会環境を鑑みて、診療ガイドライン作成・利用・普及に関する、社会的に重要な側面を分析し整理することを目的とする。

B. 研究方法

診療ガイドラインに関連する諸情報を、国内外より収集し、それをもとに、診療ガイドラインの作成プロセス、利用・普及のプロセスに関する課題を分析する。また、様々な立場から診療のガイドラインや標準化・質確保、あるいは受療などに係わる人達との議論から情報収集や分析を行う。

一方で、診療ガイドラインに関する情報発信基盤やポータルサイトのあり方を研究する。海外のあり方について、ちなみにNICEのPIUに関する情報は3年前に現地にて取材し、MINDS関係会議に

て紹介したものであるが、立ち上げ時の貴重な情報に満たされ、日本の現状を切り開くに当り、示唆に富むものであり、分析対象として取り扱う。

(倫理面への配慮)

当研究では、個人情報を取り扱わず、個人レベルの情報収集も行わない。研究倫理にて課題となるような事象は取り扱わない。

C. 研究結果と考察

診療ガイドラインのデータベースや情報基盤の利用あるいは潜在的利用の目的は、国民、消費者・患者による特定の疾患やその治療方法等に関して情報検索、一般的に疾患やその治療方法等に関して情報検索、医療の内容や質への関心、など2) 医療者、患者がどのような医療情報を利用しているかを知るため、患者に役立つ情報を知るため、患者が言及した特定のガイドラインの内容を知るため、など3) その他(研究者、医療関連の製造業・サービス産業等)、一般的興味や医療の質に関する関心や特定の研究問題、文献資料中に引用されている情報の検索、患者のニーズの把握や調査、などがある。

特定領域の疾患・医療に関する情報を解説したものが、国内にもいくつか見られる。さらに、医療に関して一般的な説明を行うさまざまなサイトがあるが、より技術的でなくなる傾向があり、健康的なライフスタイルや患者安全、治療の管理など広範囲のトピックに関連する情報を提供しがちになる。これらにおいて

は、構造の標準化や内容を監査するしくみの確立がなされていないようであるが、診療ガイドラインの機能や対象も、質保証のしくみは完成していない。また、より安全に質の高い医療を受ける際の一般的な指針を提示したものがある。特定の領域に焦点をあてず、診療ガイドラインと平行した内容ではないものもある。

望ましい情報基盤（情報発信源）のあり方としては、できるだけエビデンスに基づき、その限界も明示されている、技術的に具体的で受診の場面で実践的に活用しやすい、構造化されていて必要情報が網羅され検索しやすくわかりやすい、内容が系統的に監査され、情報の質が保証されていることである。また、その医療のプロセスに係わる患者家族や各職種の立場からの情報が統合されている必要がある。そのためにもこれらの立場からの参加、コミットメント、インプットが重要である。また、常に、新しい診断・治療やセルフマネジメントの方法や、その評価情報は、生成されており、ガイドラインは日々成長するしくみを兼ね備えておく必要がある。

診療ガイドラインの作成や利用・普及を推進するプロセスには、社会的な設計を必要とする。その際、我が国の医療・社会環境を鑑みて、以下のような点が重要ではないか。

1. 診療ガイドラインのスコープには、患者や医師、医療職を始め医療における様々な役割を担う者の役割の範疇があらゆる。一つの疾患などのテーマを扱う

際にも、医療の提供者、受療者を少なくとも含んだ包括的なスコープをもつガイドラインが重要であり、その作成の過程には、医療の提供者、受療者、様々な重要関係者が係わることが望まれる。

2. H16年度に報告した如く、よりよい医療を協働して作り上げていくためにも、「患者向けガイドライン」ポータルサイトの構築は、便益性のみならず、実行可能性の極めて高いものであり、国民のために予算化してする社会的重要性は高いと考えられる。

3. ガイドラインの内容の全てが、根拠の強い内容になることはなく、また、強いエビデンスの生成には大きなコストがかかることを認識しなければならない。我が国や医療現場の固有の状況を考慮する必要がある。

4. 紛争の解決などにおける偏った利用のされ方などは、医療を萎縮させ患者への不利益につながっていくので、避けられなければならない。

5. 上記を含め、診療ガイドラインの社会的側面とその価値の大きさを鑑みるにあたり、診療ガイドラインの生成、活用、普及については、短期的でトライアル的な活動の推進のみならず、国レベルでの社会的な設計と投資が必要である。

D. 結論

診療ガイドラインの機能、対象（利用者・利用目的）は様々であることを認識し、それぞれの便益と限界を把握してお

く必要がある。限界を理解しない使われ方は国民にとってマイナスとなりかねない。一方で、医療のプロセスを多角的に包括的に把握するガイドラインは重要であり、その作成と利用・普及のプロセスには、各立場の者が係わる必要がある。診療ガイドラインの生成、普及については、短期的でトライアル的な活動の推進とともに、国レベルでの社会的な設計が必要であり、一層の投資と計画に値するのではないだろうか。

E. 研究発表
特になし。

F. 知的所有権の取得状況
特になし。

診療ガイドライン文献のアクセシビリティ、主題範囲、主要掲載誌

分担研究者 山崎茂明(愛知淑徳大学文学部図書館情報学科)

1. はじめに

診療ガイドラインは、EBM を実践する際の重要な情報資源であり、医師や医療従事者だけでなく、患者や一般の人々も共有すべき情報源である。米国国立医学図書館が製作している PubMed では、診療ガイドラインやそれに準じる資料群を、出版タイプ (publication type) の文献フィールドにおいて、「Practice Guideline」という用語で識別している。この診療ガイドラインを対象にした計量文献学的検討は、2002年に青木により発表され、年次変化、雑誌発行国分布、発表言語別分布、ドキュメントタイプ、主要掲載誌など詳細な検討がなされている¹⁾。今回の調査では、アクセシビリティや主題範囲といった新しい視点を加えている。

PubMed には 1950 年代から 1500 万件の文献が蓄積されており、世界中の医師、医学研究者、医療従事者といった専門家だけでなく、患者や一般の人々にも利用されている。特に、1997年のインターネットでの無料公開が実現されると、一般の人々向きの健康雑誌や代替医療・伝統医学文献もカバーし、包括的な健康情報資源に拡張されている。検索技法もより簡便になり、医学用語シソーラスである MeSH 用語についての知識が無くても、システム側で利用者側の言葉を読み替える優れた機能もある。また、Limit 機能を使えば、必要な文献を迅速に特定できる。

現在の PubMed は、電子ジャーナルを中心にフルテキストへのリンクが形成されて

おり、検索結果から求める文献まで一挙にたどり着ける。そこで、無料で原文献を入手できる「free full text」と、有料で原文献を入手できる「full text」、そして抄録や書誌事項だけしか入手できない「原文献へのリンク無し」の比率を調査し、診療ガイドライン文献のアクセシビリティを明らかにした。また、EBM 実践のために有効な診療ガイドライン文献がカバーしている疾病群の特色を、MeSH の疾病カテゴリーを用いて明示し、診療ガイドライン文献が多く発表されている疾病分野を示した。さらに、診療ガイドライン文献を多く掲載している雑誌を特定し、その特色として雑誌評価指標である Impact Factor からの分析も試みた。診療ガイドライン文献を対象とし、そのアクセシビリティ、主題範囲、主要掲載誌について調査分析したものである。今後、日本における診療ガイドラインの作成と利用を検討する際に、比較資料として寄与できればと考えている。

2. 対象と方法

PubMed から、診療ガイドライン文献を特定するために、出版タイプ (publication type) が practice guideline のものを検索した。調査は 2005 年 10 月 5 日に行い、9186 文献を得た。分析対象は、1990 年から 2004 年に刊行された 8769 文献とし、2005 年に出版された文献を除外した。なお、出版タイプの practice guideline は、1992 年に導入されている。分析対象にした 8769 文献は、個人用文献管理ソフトである

ProCite(トムソンサイエンティフィック社)を用いて検索し、結果をダウンロードした。

PubMed を検索した後、利用者が必要な診療ガイドライン文献を入手する容易さ(アクセスビリティ)を明らかにするために、サブセット・フィールド(sb)を用いて、無料で全文にアクセスできるものを「free full text」、有料で全文にアクセスできるものを「full text」で特定し、その比率変化を調査した。

主題範囲を分析するためには、MeSH (Medical Subject Headings)の用語カテゴリーである「diseases category」を用いて検索した。この「diseases category」は、23のサブカテゴリーに展開されている(表1)。どのサブカテゴリーの疾病群を対象に、診療ガイドライン文献が発表されているかを示すことができる。なお、この「diseases category」の MeSH 用語を含む文献を、文献内容から主要なキーワードが与えられている「Major Topics」に限定して PubMed を検索すると、6,315,395 文献が識別された。これは、PubMed 収録文献の 40 パーセントに相当するものである。診療ガイドライン文献の主要掲載誌を識別するには、ProCite のソート機能を用いてランクリストを作成した。

3、結果と考察

1) 診療ガイドライン文献の生産

1990 年から 2004 年に刊行された 8769 件の診療ガイドライン文献を対象に、出版年次による分布を示した(図1)。出版タイプのフィールドに practice guideline が 1992 年に導入され、容易に診療ガイドライン文献を特定できるようになった。この 1992 年には、451 件の診療ガイドライン文献が掲載されていた。年次変化をみると、

1990 年代後半から増加傾向が顕著であり、2002 年に落ち込みがあったが、現在も文献数の上昇が進行している。EBM(根拠に基づく医療)の普及とともに、診療ガイドライン文献が増大している。

2) アクセスビリティ

診療ガイドラインは、研究者よりも、臨床家、医療従事者、さらに一般の人々まで、広く利用されるものである。それだけに、PubMed を検索した後、スムーズに必要とする診療ガイドライン文献を、PubMed データベース画面から読めるかどうかのポイントになる。そこで、診療ガイドライン文献のアクセスビリティを、PubMed からの全文(フルテキスト)へのリンク状況から明らかにした。

「フルテキスト・リンクの無いもの」、「無料のフルテキスト・リンクがあるもの」、「有料のフルテキスト・リンクがあるもの」の3種類に分け、それらの年次変化を示した(図2、付表1)。1996 年に、フルテキスト・リンクがあるものが全診療ガイドライン文献の 57.7 パーセントを占めた。無料と有料のものがあるが、原文献への入手可能性は大きく向上していた。2000 年以降は、70 パーセントをこえるアクセスビリティの高さを示している。1995 年は、インターネットが本格的に社会へ普及しはじめた年であり、電子技術環境の向上は診療ガイドライン文献のアクセスの改善に寄与している。なお、PubMed データベースの全体に占める、「free full text」と「full text」の比率変化は、付表2に示したが、1995 年以降 50 パーセントをこえて全文へのリンクが形成されており、2005 年(2005 年 10 月 24 日現在)分では 87 パーセントを占めるまで上昇していた。

フルテキストへのリンクのなかで、無料で入手できる比率に注目し、診療ガイドライン文献のアクセスビリティを、PubMed 全体の比率と比較してみよう(図3)。興味深いことは、2000 年以降、無料で入手できるフルテキストのシェアが、PubMed 全体に占める無料分シェアより高くなっていることである。診療ガイドライン文献の方が、無料で全文が提供される比率が高いことは、利用から見て適切な状況が形成されているといえる。

3) 主題範囲

いかなる疾病群を記述した診療ガイドライン文献が生産されているかを示すために、主題範囲を MeSH の「diseases category」を用いて 23 の疾病群(サブカテゴリー)に分けてみた。診療ガイドライン文献と、各サブカテゴリー群文献との論理積をとったものである。結果は、以下の 3 種類の表で示した。

- ・ 23 の各サブカテゴリー群に占める診療ガイドライン文献の比率の順(表2)
- ・ 23 の各サブカテゴリー群に占める診療ガイドライン文献の文献数の高い順(表3)
- ・ 23 の各サブカテゴリーを文献数の高い順に並べて診療ガイドライン文献数を示す(表4)

表2から、Virus Diseases(1位、0.16%)や Bacterial Infections and Mycoses(2位、0.15%)など、感染症の比率の高さが明瞭に示されており、診療ガイドラインで求められている疾病群である。3位は Female Genital Diseases and Pregnancy Complications、4位は Cardiovascular Diseases となっていた。一方、シェアからみて低い領域は、21位 Musculoskeletal

Diseases、22位 Eye Diseases、23位 Animal Diseases などであった。

診療ガイドライン文献の文献数順位を示す表3からは、死因や罹患率でも主要な疾病である Cardiovascular Diseases と Neoplasms が上位 1, 2 位を占めていた。特に、Cardiovascular Diseases は、表2の比率順位で 4 位になっており、主要な分野であることがわかる。Neoplasms 文献は、PubMed 全体に占める疾病としてはもっとも多い文献であり、生物医学研究から臨床までの高い関心の所在を示している(表4)。診療ガイドラインの比率(表2)でみると 11 位になっている。医学研究面で関心ある疾病領域と日常診療で必要とする領域に違いが存在することを示すものである。同様に、Nervous System Diseases は表4では 3 位を占め、研究的な関心は高いが、表2の診療ガイドライン文献シェアでは 12 位と低い。

4) 主要掲載誌

診療ガイドライン文献を掲載している主要雑誌について、その上位 20 位 21 誌を、2004 年の Impact Factor 値を含めてリストした(表5)。Impact Factor は、雑誌を評価する指標として利用した。1位は Pediatrics、2位は Int J Gynaecol Obstet、そして3位は Am Fam Physician であった。小児科や産婦人科の臨床誌が、診療ガイドライン文献を数多く掲載していた。3位は家庭医の代表誌である。研究指向の雑誌や著名総合医学雑誌よりも、各分野の臨床家向け雑誌を中心に掲載されている。総合医学雑誌としては、7位 CMAJ、11位 Ann Intern Med、16位 JAMA などがリストされてくるが、研究指向の強い N Engl J Med などは上位 71 位 75 誌のリストに出てこない(付

表2)。

雑誌評価指標である Impact Factor は、Journal Citation Reports(JCR)から得られる。表5から示されるように、雑誌評価の高さと一致していない。臨床に役立つ診療ガイドライン文献は、Impact Factor の高い雑誌に掲載されているわけではない事実に注意が必要である2)。Impact Factor 値は、研究誌の評価には向いているが、臨床誌は臨床家に読まれていても、臨床家は論文の著者にはならず引用指標に反映されない。よく読まれても、それが引用に必ずしも反映されないことがある。診療ガイドライン文献の主要誌リストは、雑誌評価を Impact Factor だけで行うことの問題が明らかにされている。さらに、JCR に収載されていないニュース誌やコミュニケーション誌など 6 誌が、上位 20 位リストにあげられていることにも注意する必要がある。

参考文献

- 1) 青木 仕. 診療ガイドライン文献の分析: MEDLINE を用いたビブリオメトリックス. 医学図書館 2002; 49(1): 50-8.
- 2) Nakayama T, Fukui T, Fukuhara S, Tsutani K, Yamazaki S. Comparison between impact factors and citations in evidence-based practice guidelines. JAMA. 2003; 290(6): 755-6.

表1 Diseases category の展開と該当サブカテゴリー文献数 6074 (PubMed 全体に占める各サブカテゴリー文献数) : 2005 年 10 月 24 日調査

Animal Diseases	: 30 (181448)
Bacterial Infections and Mycoses	: 788 (536770)
Cardiovascular Diseases	: 1195 (950656)
Congenital, Hereditary, and Neonatal Diseases and Abnormalities	: 268 (485486)
Digestive System Diseases	: 543 (696065)
Disorders of Environmental Origin	: 391 (563354)
Endocrine System Diseases	: 439 (364917)
Eye Diseases	: 73 (225105)
Female Genital Diseases and Pregnancy Complications	: 500 (378924)
Hemic and Lymphatic Diseases	: 222 (370995)
Immune System Diseases	: 681 (629310)
Musculoskeletal Diseases	: 203 (402945)
Neoplasms	: 1108 (1307952)
Nervous System Diseases	: 834 (994272)
Nutritional and Metabolic Diseases	: 433 (390389)
Otorhinolaryngologic Diseases	: 125 (146429)
Parasitic Diseases	: 96 (162674)
Pathological Conditions, Signs and Symptoms	: 860 (1211970)
Respiratory Tract Diseases	: 626 (506824)
Skin and Connective Tissue Diseases	: 420 (511311)
Stomatognathic Diseases	: 143 (216550)
Urologic and Male Genital Diseases	: 359 (420311)
Virus Diseases	: 585 (357346)

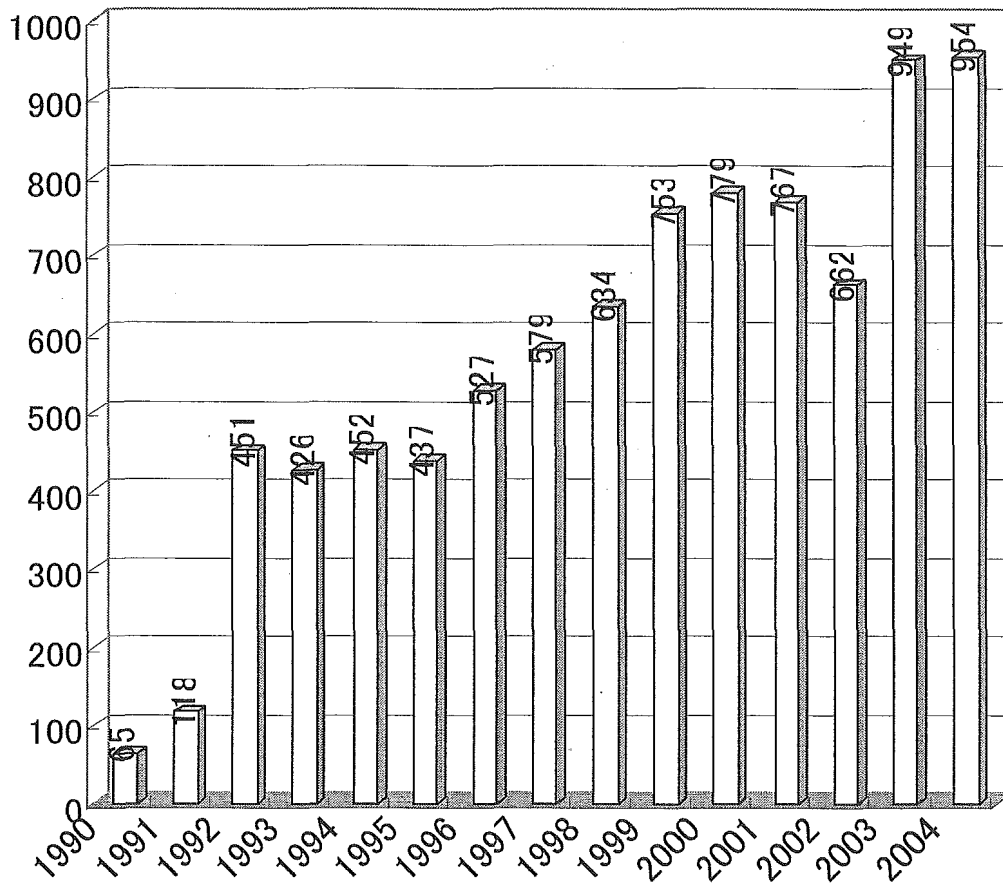


図1 Practice Guideline 文献数の年次変化 (1990-2004 : PubMed Oct 5, 2005)

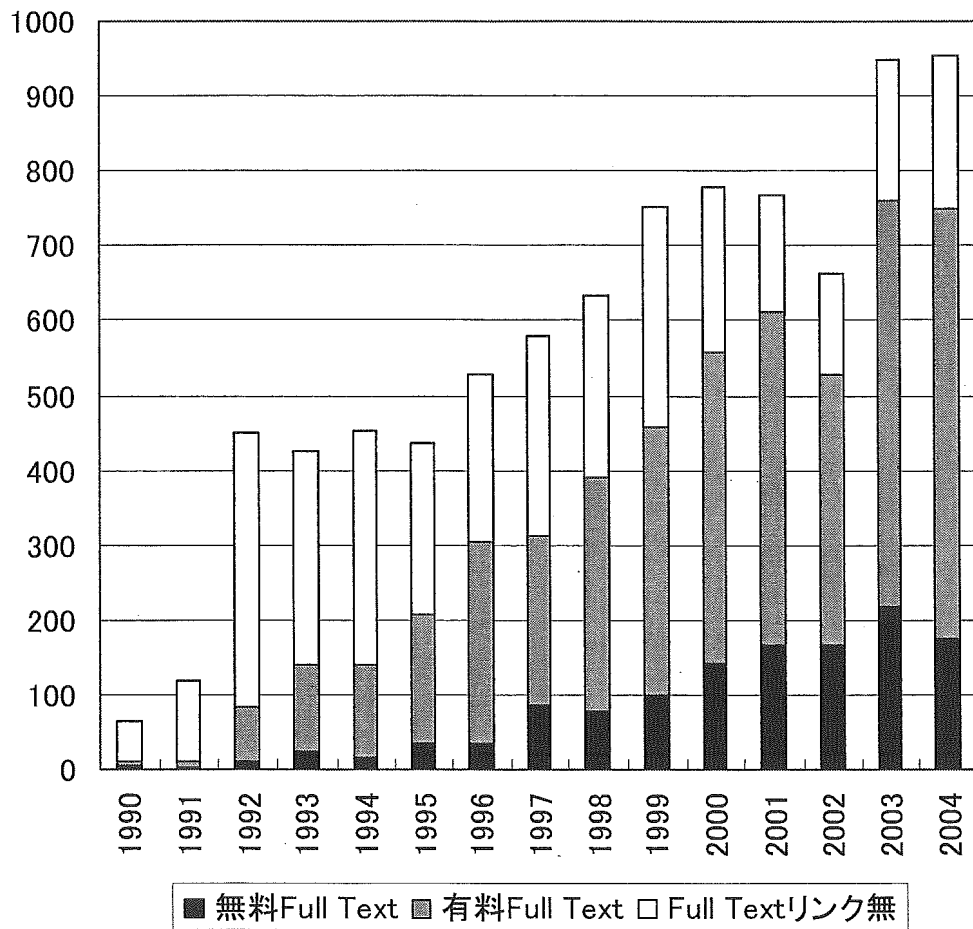


図2 Practice Guideline 文献数に占める無料 Full Text 文献数、有料 Full Text 文献数、Full Text リンク無し文献数の年次変化(PubMed Oct 24,2005)

付表1 Practice Guideline文献:無料Full Text、有料Full Text、Full Textリンク無し

	無料Full Text	有料Full Text	Full Textリンク無し	Full Text小計(1)+(2)	総計(1)+(2)+(3)
1990	5	7	53	12	65
1991	4	6	108	10	118
1992	11	72	368	83	451
1993	23	118	285	141	426
1994	17	124	311	141	452
1995	35	172	230	207	437
1996	35	269	223	304	527
1997	87	226	266	313	579
1998	78	312	244	390	634
1999	100	357	296	457	753
2000	142	415	222	557	779
2001	168	443	156	611	767
2002	167	362	133	529	662
2003	219	541	189	760	949
2004	176	572	206	748	954
Total	1267	3996	3290	5263	8553

Source:PubMed Oct 24, 2005

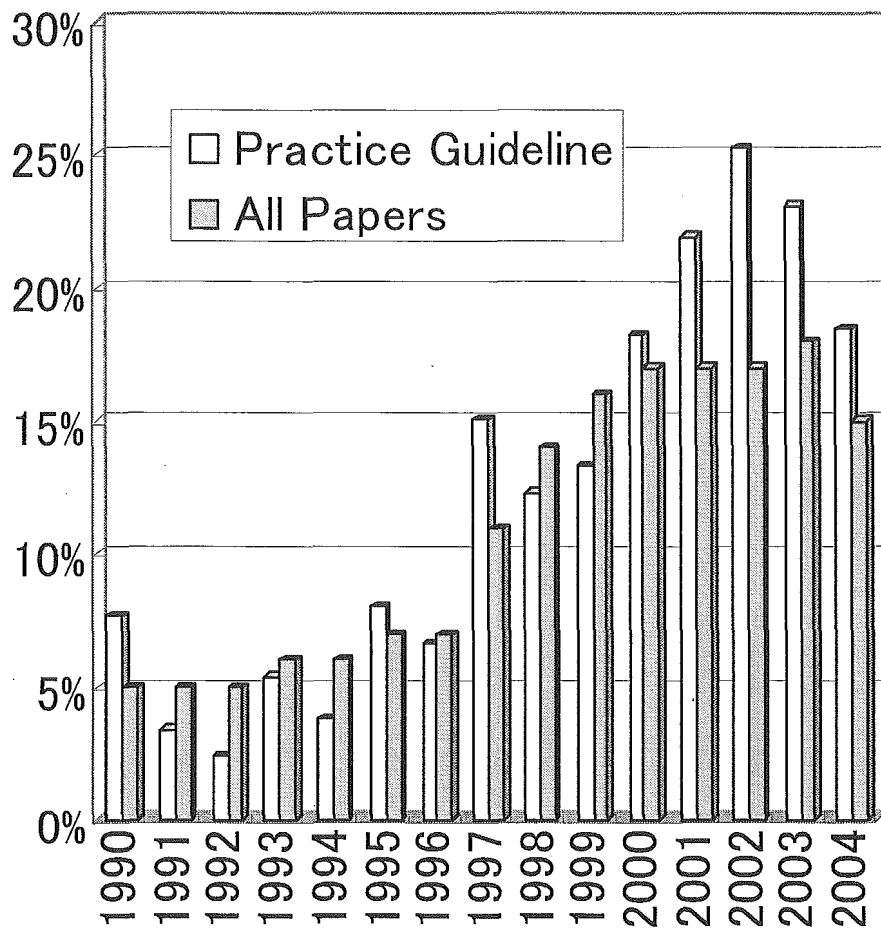


図3 Practice Guideline 文献と PubMed 全文献を対象に Free Full Text 論文の占める比率を比較する(PubMed Oct 24,2005)

表2 Practice Guideline 文献の多い疾病: シェア順(PubMed Oct 24, 2005)

順位	疾病(Diseases)	Practice Guideline	All PubMed	(1)/(2)
1	Virus Diseases	585	357346	0.16%
2	Bacterial Infections and Mycoses	788	536770	0.15%
3	Female Genital Diseases and Pregnancy Complications	500	378924	0.13%
4	Cardiovascular Diseases	1195	950656	0.13%
5	Respiratory Tract Diseases	626	506824	0.12%
6	Endocrine System Diseases	439	364917	0.12%
7	Nutritional and Metabolic Diseases	433	390389	0.11%
8	Immune System Diseases	681	629310	0.11%
9	Urologic and Male Genital Diseases	359	420311	0.09%
10	Otorhinolaryngologic Diseases	125	146429	0.09%
11	Neoplasms	1108	1307952	0.08%
12	Nervous System Diseases	834	994272	0.08%
13	Skin and Connective Tissue Diseases	420	511311	0.08%
14	Digestive System Diseases	543	696065	0.08%
15	Pathological Conditions, Signs and Symptoms	860	1211970	0.07%
16	Disorders of Environmental Origin	391	563354	0.07%
17	Stomatognathic Diseases	143	216550	0.07%
18	Hemic and Lymphatic Diseases	222	370995	0.06%
19	Parasitic Diseases	96	162674	0.06%
20	Congenital, Hereditary, and Neonatal Diseases and Abnorma	268	485486	0.06%
21	Musculoskeletal Diseases	203	402945	0.05%
22	Eye Diseases	73	225105	0.03%
23	Animal Diseases	30	181448	0.02%

表3 Practice Guideline文献の多い疾病：文献数順(PubMed Oct 24, 2005)

順位	疾病(Diseases)	Practice Guideline	All PubMed	(1)/(2)
1	Cardiovascular Diseases	1195	950656	0.13%
2	Neoplasms	1108	1307952	0.08%
3	Pathological Conditions, Signs and Symptoms	860	1211970	0.07%
4	Nervous System Diseases	834	994272	0.08%
5	Bacterial Infections and Mycoses	788	536770	0.15%
6	Immune System Diseases	681	629310	0.11%
7	Respiratory Tract Diseases	626	506824	0.12%
8	Virus Diseases	585	357346	0.16%
9	Digestive System Diseases	543	696065	0.08%
10	Female Genital Diseases and Pregnancy Complications	500	378924	0.13%
11	Endocrine System Diseases	439	364917	0.12%
12	Nutritional and Metabolic Diseases	433	390389	0.11%
13	Skin and Connective Tissue Diseases	420	511311	0.08%
14	Disorders of Environmental Origin	391	563354	0.07%
15	Urologic and Male Genital Diseases	359	420311	0.09%
16	Congenital, Hereditary, and Neonatal Diseases and Abnorma	268	485486	0.06%
17	Hemic and Lymphatic Diseases	222	370995	0.06%
18	Musculoskeletal Diseases	203	402945	0.05%
19	Stomatognathic Diseases	143	216550	0.07%
20	Otorhinolaryngologic Diseases	125	146429	0.09%
21	Parasitic Diseases	96	162674	0.06%
22	Eye Diseases	73	225105	0.03%
23	Animal Diseases	30	181448	0.02%

表4 文献の多い疾病:文献数順(PubMed Oct 24, 2005)

順位	疾病(Diseases)	Practice Guideline	All PubMed	(1)/(2)
1	Neoplasms	1108	1307952	0.08%
2	Pathological Conditions, Signs and Symptoms	860	1211970	0.07%
3	Nervous System Diseases	834	994272	0.08%
4	Cardiovascular Diseases	1195	950656	0.13%
5	Digestive System Diseases	543	696065	0.08%
6	Immune System Diseases	681	629310	0.11%
7	Disorders of Environmental Origin	391	563354	0.07%
8	Bacterial Infections and Mycoses	788	536770	0.15%
9	Skin and Connective Tissue Diseases	420	511311	0.08%
10	Respiratory Tract Diseases	626	506824	0.12%
11	Congenital, Hereditary, and Neonatal Diseases and Abnorma	268	485486	0.06%
12	Urologic and Male Genital Diseases	359	420311	0.09%
13	Musculoskeletal Diseases	203	402945	0.05%
14	Nutritional and Metabolic Diseases	433	390389	0.11%
15	Female Genital Diseases and Pregnancy Complications	500	378924	0.13%
16	Hemic and Lymphatic Diseases	222	370995	0.06%
17	Endocrine System Diseases	439	364917	0.12%
18	Virus Diseases	585	357346	0.16%
19	Eye Diseases	73	225105	0.03%
20	Stomatognathic Diseases	143	216550	0.07%
21	Animal Diseases	30	181448	0.02%
22	Parasitic Diseases	96	162674	0.06%
23	Otorhinolaryngologic Diseases	125	146429	0.09%

表5 Practice Guideline文献を掲載している中心誌(PubMed Oct 24, 2005)

順位	雑誌名	文献数	雑誌IF値(2004)
1	Pediatrics	248	3.903
2	Int J Gynaecol Obstet	212	0.754
3	Am Fam Physician	173	1.261
4	Circulation	159	12.563
5	AORN J	120	-
6	MMWR Recomm Rep	118	-
7	CMAJ	115	5.941
8	Diabetes Care	111	7.071
9	Ned Tijdschr Geneeskd	99	-
10	Ann Emerg Med	96	2.623
11	Ann Intern Med	95	13.114
12	Clin Infect Dis	85	5.594
13	Gastrointest Endosc	79	3.483
14	Obstet Gynecol	72	3.512
14	Resuscitation	71	1.376
15	Neurology	70	5.973
16	JAMA	67	24.831
17	Oncology(Williston Park)	61	-
18	Can Commun Dis Rep	58	-
"	Duodecim	58	-
20	Fertil Steril	57	3.170
"	J Am Coll Cardiol	57	9.133

付表2 Practice Guideline文献を掲載している中心誌(PubMed Oct 24, 2005)

順位	雑誌名	文献数
1	Pediatrics	248
2	Int J Gynaecol Obstet	212
3	Am Fam Physician	173
4	Circulation	159
5	AORN J	120
6	MMWR Recomm Rep	118
7	CMAJ	115
8	Diabetes Care	111
9	Ned Tijdschr Geneesk	99
10	Ann Emerg Med	96
11	Ann Intern Med	95
12	Clin Infect Dis	85
13	Gastrointest Endosc	79
14	Obstet Gynecol	72
14	Resuscitation	71
15	Neurology	70
16	JAMA	67
17	Oncology(Williston Park)	61
18	Can Commun Dis Rep	58
19	Duodecim	58
20	Fertil Steril	57
"	J Am Coll Cardiol	57
22	Chest	56
23	Respir Care	55
24	Bull Cancer	53
25	MMWR Morb Mortal Wkly Rep	51
26	J Am Acad Dermatol	50
27	Pneumologie	49
"	S Afr Med J	49
29	Nephrol Dial Transplant	48
30	Can J Cardiol	47
31	J Nucl Med	46
"	Z Gastroenterol	46
33	Arch Pathol Lab Med	45
"	J Vasc Interv Radiol	45
35	Arq Bras Cardiol	44
"	Rev Esp Cardiol	44
37	Lakartidningen	43
38	Eur Heart J	42
39	J Am Acad Child Adolesc Psychiat	41
40	J Am Diet Assoc	40
41	J Allergy Clin Immunol	38
"	J Obstet Gynaecol Can	38
43	Med J Aust	37
44	Pediatr Dent	35
45	J Neurotrauma	34
46	Am J Respir Crit Care Med	33
"	Am J Health Syst Pharm	32
"	Gastroenterol Nurs	32
"	Gastroenterology	32
"	Hautarzt	32
"	Thorax	32
52	J Clin Oncol	31
53	Arch Mal Coeur Vaiss	30
"	Gut	30

55	BMJ	29
"	Electroencephalogr Clin Neurophy	29
57	Am J Gastroenterol	28
"	Br J Haematol	28
"	Gastroenterol Clin Biol	28
60	Br J Cancer	27
"	Crit Care Med	27
"	Int J Radiat Oncol Biol Phys	27
"	J Periodontol	27
"	Press Med	27
"	Tidsskr Nor Laegeforen	27
66	Arch Bronconeumol	26
"	Diabetes Educ	26
"	Dis Colon Rectum	26
"	J Am Geriatr Soc	26
"	Natl Inst Health Consens Dev Cor	26
71	AAOHN J	25
"	Am J Kidney Dis	25
"	Am J Psychiatry	25
"	J R Coll Physicians Lond	25
"	Sex Transm Infect	25
